スポーツ庁再委託事業

令和５年度 障害者スポーツ推進プロジェクト

（障害者スポーツの実施環境の整備等に向けたモデル創出事業）

事業成果報告書

令和６年３月 10 日

一般社団法人日本デフバレーボール協会

JDVA
Japan Deaf Volleyball Association

令和５年度 障害者スポーツ推進プロジェクト
（障害者スポーツの実施環境の整備等に向けたモデル創出事業）

事業成果報告書

目次

１．事業の実施期間　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3

２．事業趣旨　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3

３．事業の実施体制　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4

４．事業の内容　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4

５．事業の成果　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　21

６．今後の事業展開予定　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　21

１．事業の実施期間

2023 年 8 月 25 日～2024 年 3 月 10 日

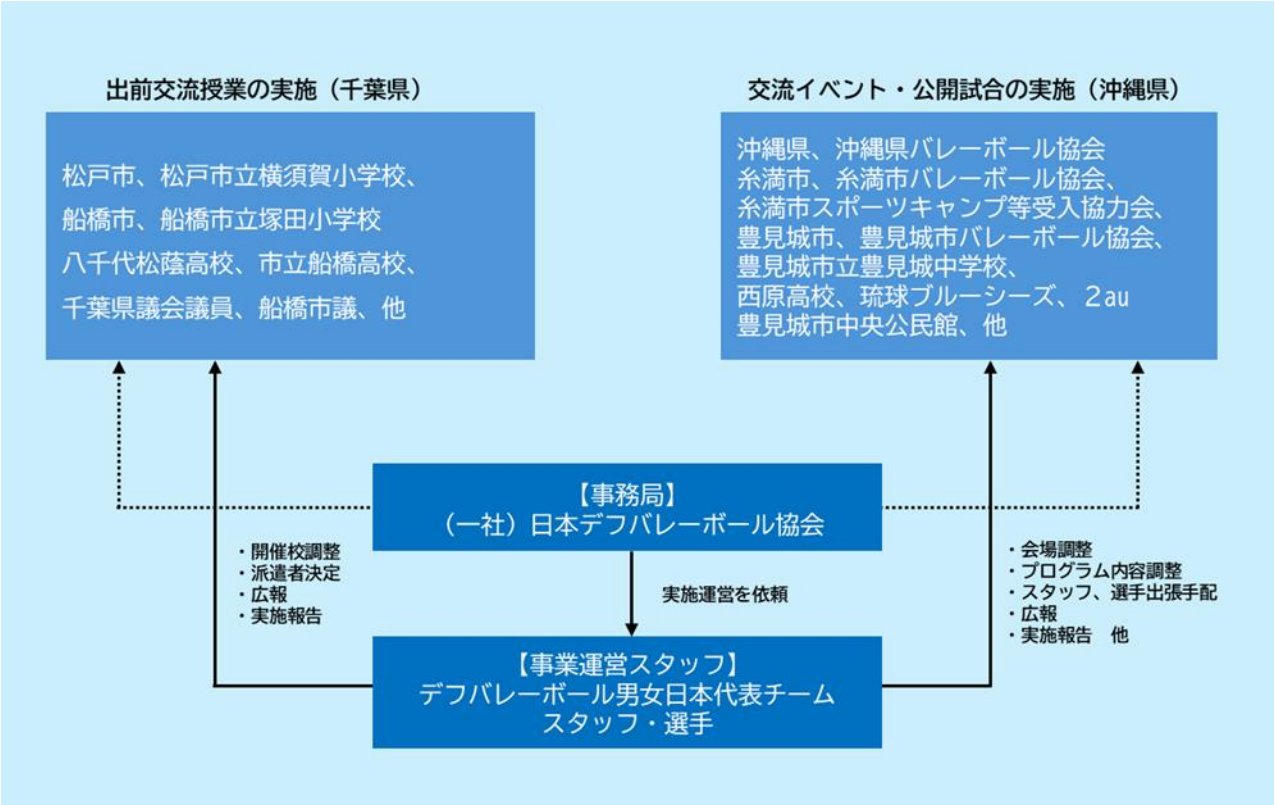
２．事業趣旨

2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の前に　、日本全国の小・中学校等を中心に「パラリンピック教育」が実施され、障害者スポーツに関する周知や理解は促進されたが、パラリンピックの対象ではないため、聴覚障害者を対象としたスポーツ（デフスポーツ）の普及啓発や振興を目的とした取組はこれまでほとんど実施されていない。

聴覚障害者スポーツのオリンピックである「デフリンピック」が 2025 年に日本（東京）で開催することが決定したが、その認知度は大変低い。また、聴覚障害は「目に見えない障害」であるため、他の障害種別と比較して理解も進んでいるとは言い難い状況にあるといえる。

デフバレーボール競技は東京デフリンピックの前年（2024 年）6 月に沖縄県にて世界選手権の開催も決定している。このため、本事業では、この２大世界大会の国内開催を契機として、デフスポーツやデフバレーボールの認知拡大を図り、聴覚障害者のスポーツ機会拡充はもとより、障害に対する理解が促進されることで、聴覚障害者と健聴者が「ともに」運動やスポーツを実施する機会創出を図ることで、障害者スポーツ人口の拡大に貢献することを目的とする。

３．事業の実施体制



４．事業の内容

（１）事業のテーマ

	モデル創出事業のテーマ
	ア）地域における福祉・教育・競技団体等との連携を中核的に担うコーディネーターの配置
◎	イ）地域の課題に対応した障害者に対するスポーツの振興、実施環境の整備
○	ウ）デジタル技術を活用した障害者スポーツ実施環境の整備
	エ）オープンスペースを活用したインクルーシブなスポーツ実施環境の整備
	オ）複数の特別支援学校等が参加する全国大会の開催及び運営組織の設置等

【詳細テーマ】

・『イ）地域の課題に対応した障害者に対するスポーツの振興、実施環境の整備』

・『③「企業・学校関係組織・競技団体が連携して行う、障害のある児童生徒と障害のない児童生徒がともにスポーツを行う機会の創出」』

・『対象種目：デフバレーボール』

（２）実行委員会

実施環境の整備に向け、現場で活動・活躍している企業、競技団体、競技チーム等とも連携し、情報共有・課題抽出・連携調整・モデル化に向けた議論等を行い、事業を推進した。

当初の予定では、主な事業を実施する千葉エリア、沖縄エリアのメンバーを統合した実行委員会を立ち上げる計画としていたが、実施予定の事業内容が異なることや地域差などを考慮してそれぞれの地域にて、当協会役員及び男女チームスタッフが中心となり関係組織とメール協議を中心に事業を実施した。

【千葉エリア事業関係団体、関係者】

松戸市、松戸市立横須賀小学校、船橋市、船橋市立塚田小学校
八千代松蔭高校、市立船橋高校、千葉県議会議員、船橋市議、他

【沖縄エリア事業関係団体、関係者】

沖縄県、沖縄県バレーボール協会
糸満市、糸満市バレーボール協会、糸満市スポーツキャンプ等受入協力会、
豊見城市、豊見城市バレーボール協会、豊見城市立豊見城中学校、
西原高校、琉球ブルーシーズ、２au、豊見城市中央公民館、他

（３）事業の実施内容

１）東京 2025 デフリンピックに向けたデフスポーツ人口の拡大と普及啓発の取組
～地域の小学生を対象とした『出前交流授業』～

日本デフバレーボール協会役員（難聴者）、男子日本代表チーム監督・スタッフ（健聴者）、代表選手（ろうまたは難聴者）が講師役となり、千葉県内の小学校２校にて（各校２回）、デフバレーボールを通じて理解と障害の有無を超えたコミュニケーションについての出前交流事業を実施した。

① 松戸市立横須賀小学校での取組

開催日	令和５年 12 月５日（火）13：45～15：45（45 分×２回）
JDVA 参加者	大川　裕二（日本デフバレーボール協会理事長） 村井　貴行（男子代表チーム監督）
学校参加者	小学校６年生児童　140 名 小学校６年生児童保護者　15 名 小学校教職員（校長・教頭・教務主任・５年生担任）　８名
自治体関係者	松戸市にぎわい創造課文化スポーツ振興担当室　２名 松戸市広報課　２名
実施内容	・聴覚障害とは ・デフバレーボールとは ・手話を使ってみよう ・世界選手権とデフリンピックに向けて ・デフバレー紹介リーフレット配布

手話を教える大川理事長

村井監督の授業

＜実施効果＞

・聴覚障害・手話等に関する児童の理解が深まり、教室の朝の挨拶などで生徒が手話を使っている様子が見受けられる（担任教員へのヒアリング）

・デフバレーボール競技への児童の興味関心が高まり、デフリンピックを観に行きたいと多くの生徒が口にしている（担任教員へのヒアリング）

＜広報・情報発信＞

・松戸市の広報において、本取組が PR された。

・東京新聞に本出張授業の様子が掲載された。

・講演の反響により、新たに松戸市ろうあ協会から依頼を受け 3 月 17 日にデフリンピックについて講演を行うことになった。

松戸市報道資料
令和５年１１月２７日

聴覚障害者による競技「デフバレーボール」の学習会を松戸市立横須賀小学校で実施します

東京 2025 デフリンピック開催（※）に向けた市内への取組周知の一環で、一般社団法人日本デフバレーボール協会と松戸市が共催し、聴覚障害者による競技スポーツ「デフバレーボール」を題材とした学習会を松戸市立横須賀小学校５年生の児童を対象に開催します。

本学習会には、松戸市出身で、デフバレーボール日本男子代表監督の村井貴行（たかゆき）氏をお招きし、村井氏の母校である松戸市立横須賀小学校にて、聴覚障害とデフスポーツなどの講話を行います。

※デフリンピックとは、「耳が聞こえない」を意味する英単語「Deaf(デフ)」と「オリンピック」を掛け合わせた言葉で、オリンピック・パラリンピックと同様、４年に１度、夏と冬の大会が２年毎に開かれる国際総合スポーツ競技大会のこと。２０２５年に開催される東京デフリンピックは、１００周年の記念すべき大会であり、日本で初めて開催される夏季大会となります。

●日　時　令和５年１２月５日（火）
５時間目（１３：４５～１４：３０）　５年１組・２組児童対象
６時間目（１４：３５～１５：２０）　５年３組・４組児童対象
●会　場　松戸市立横須賀小学校・体育館（松戸市新松戸北２-１３-１）
※駐車場あり
●内　容　デフバレーボール学習会として、以下の講話を行います。
・聴覚障害とデフスポーツについて
・デフバレーボールについて
・東京2025デフリンピック開催について　等
●主 催 等　一般社団法人日本デフバレーボール協会と松戸市との共催
●講　師　デフバレーボール日本男子チーム 監督 村井 貴行氏
●報道受付　１２月４日（月）までに下記担当までご連絡ください

村井 貴行 監督

【本件に関する問い合わせ先】
〒２７１－００７３　千葉県松戸市小根本７－８　京葉ガス Ｆ松戸第２ビル５階
松戸市経済振興部にぎわい創造課文化スポーツ振興担当室
☎０４７－７１２－１５９３　ＦＡＸ０４７－７１１－６３８７
✉ mcbunkasports@city.matsudo.chiba.jp

松戸・横須賀小で「デフバレーボール」学習会　男子代表監督が歴史など紹介
25年東京大会「聴覚障害者競技 応援を」

2023年12月10日 07時55分

「デフリンピック」などについて説明する村井監督＝松戸市立横須賀小で

2025年に東京で初開催される聴覚障害者の国際スポーツ大会「デフリンピック」に向けて、競技種目の一つ「デフバレーボール」を知ってもらおうと、千葉県の松戸市立横須賀小学校で学習会があった。同校出身で日本男子代表監督の村井貴行さん（40）が講師を務めた。

村井監督は聴覚障害者は「見た目では気付きにくいけどみんなの周りにいる」と紹介。生まれつき耳が聞こえない人は使う「日本手話」と、日本語をベースにした「日本語対応手話」があると説明した。

大会について、パラリンピックよりも歴史が長い一方、「テレビで放映されず認知度は低いが、17年の大会で女子代表が金メダルを取っている」と話すと、児童からわあっと声が上がった。用意された動画では選手らが「アイコンタクトを大事にしている」などと伝えた。

村井監督は「東京大会は聴覚障害のスポーツが知られるターニングポイントになると思ってる。選手らをぜひ応援して」と呼びかけた。（蓮村瑞希）

↑松戸市広報課からのプレスリリース　↓実施報告ページ　　↑　東京新聞記事

松戸市 Matsudo City
くらし　子育て　福祉・健康　市政情報　市の紹介　まつどの魅力　施設ガイド

聴覚障害者による競技「デフバレーボール」の 学習会を松戸市立横須賀小学校で実施しました

更新日：2023年12月8日

東京 2025 デフリンピック開催に向けた市内への取組周知の一環で、一般社団法人日本デフバレーボール協会と松戸市が共催し、聴覚障害者による競技スポーツ「デフバレーボール」を題材とした学習会を松戸市立横須賀小学校5年生の児童を対象に開催しました。

本学習会には、松戸市出身で、デフバレーボール日本男子代表監督の村井貴行氏をお招きし、村井氏の母校である松戸市立横須賀小学校にて、聴覚障害とデフスポーツなどの講話を行いました。

村井　貴行　監督

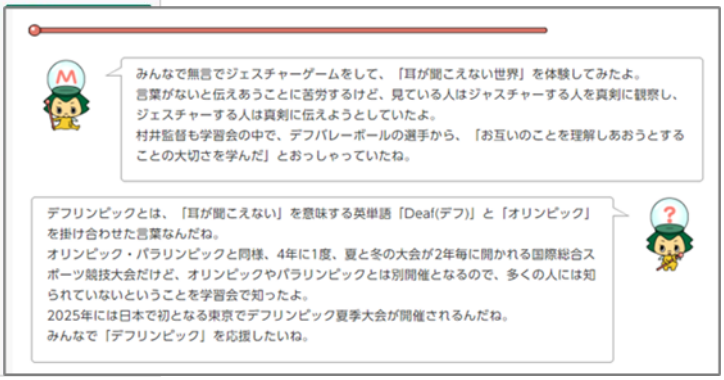
概要

日時

令和5年12月5日（火曜）
5時間目（13時45分から14時30分）5年1組・2組児童対象
6時間目（14時35分から15時20分）5年3組・4組児童対象

会場

松戸市立横須賀小学校・体育館



みんなで無言でジェスチャーゲームをして、「耳が聞こえない世界」を体験してみたよ。
言葉がないと伝えあうことに苦労するけど、見ている人はジャスチャーする人を真剣に観察し、ジェスチャーする人は真剣に伝えようとしていたよ。
村井監督も学習会の中で、デフバレーボールの選手から、「お互いのことを理解しあおうとすることの大切さを学んだ」とおっしゃっていたね。

デフリンピックとは、「耳が聞こえない」を意味する英単語「Deaf(デフ)」と「オリンピック」を掛け合わせた言葉なんだね。
オリンピック・パラリンピックと同様、4年に1度、夏と冬の大会が2年毎に開かれる国際総合スポーツ競技大会だけど、オリンピックやパラリンピックとは別開催となるので、多くの人には知られていないということを学習会で知ったよ。
2025年には日本で初となる東京でデフリンピック夏季大会が開催されるんだね。
みんなで「デフリンピック」を応援したいね。

② 船橋市立塚田小学校での取組

開催日	令和６年２月 20 日（火）13：45～14：45
JDVA 参加者	村井　貴行（男子代表チーム監督） 高橋　竜一（男子代表チーム選手） 浅野　英樹（男子代表チームマネージャー）
学校参加者	小学校６年生児童　169 名 小学校教職員（校長・教頭・教務主任・６年生担任）８名
自治体参加者	船橋市生涯スポーツ課　２名 船橋市広報課　２名
実施内容	・聴覚障害とは ・デフバレーボールとは ・手話を使ってみよう ・世界選手権とデフリンピックに向けて ・デフバレー紹介リーフレット配布

村井監督の授業

手話を教える高橋選手

生徒からの質問タイム

デフバレーのプレーを披露

＜実施効果＞
・聴覚障害・手話等に関する児童の理解が深まった。
・デフバレーボール競技への児童の興味関心が高まった。
・６月世界選手権、２０２５年デフリンピック開催について、広くアピールすることができた。

＜広報・情報発信＞
・船橋市フェイスブックにおいて、本取組が PR された。
・塚田小学校ホームページにおいて、本取組が PR された。

船橋市フェイスブック

塚田小学校ホームページ

２）デフバレーボール世界選手権 2024（沖縄）を契機とした交流/機運醸成イベント

沖縄県内、特に世界選手権の試合・練習会場となる糸満市及び豊見城市の小学生を対象に、デフバレーボール男女代表チームの代表選手との交流イベント及び男女代表チームと県内の健聴バレーボールチームとのエキシビションマッチ（公開試合）を行った。

交流イベントは聴覚障害の有無に関わらず、簡単な手話や身振りを使ってともにバレーボールを楽しむイベントとし、聴覚障害者と児童生徒のスポーツを通した相互理解の機会創出を推進することを目的とした。エキシビションマッチ（公開試合）は、デフバレーの試合を目の前で見てもらうことで、競技の認知度向上と世界選手権大会に向けての機運醸成を図った。

① デフバレーボール体験・交流イベント

開催日	令和６年１月 20 日（土）10：00～11：00
会場	糸満市西崎総合体育館
JDVA 参加者	デフバレー男子・女子日本代表チーム選手及びスタッフ 日本デフバレーボール協会理事
参加者	糸満市内小学生バレークラブ 40 名 豊見城市小学生バレークラブ 40 名 ※インフルエンザ流行などにより、当日の参加者は約 60 名
自治体参加者	糸満市長、糸満市バレーボール協会会長（副市長） 糸満市観光・スポーツ振興課　５名 糸満市バレーボール協会　７名 豊見城市生涯学習振興課　３名
実施内容	・糸満市長挨拶 ・日本デフバレーボール協会理事長挨拶 ・デフバレー交流会 デフスポーツ、世界選手権、デフリンピックの紹介 手話で自己紹介をしてみよう 手話バトンリレー バレーボールゲーム（試合） ・閉会式、写真撮影 ※エントランスロビーにて、デフバレボールの歴史を紹介するパネルやトロフィー、アルバムなどを展示

全員での集合写真

開会式

大川理事長の挨拶

當銘 糸満市長の挨拶

市長の挨拶や司会の言葉は手話通訳を通じて選手に伝えます

↑　５～６人ずつのグループに分かれて、選手から手話での自己紹介や簡単な挨拶などをレクチャーしました

↑　手話リレーやバレーボールゲームも盛り上がりました

② エキシビジョンマッチ（公開試合）

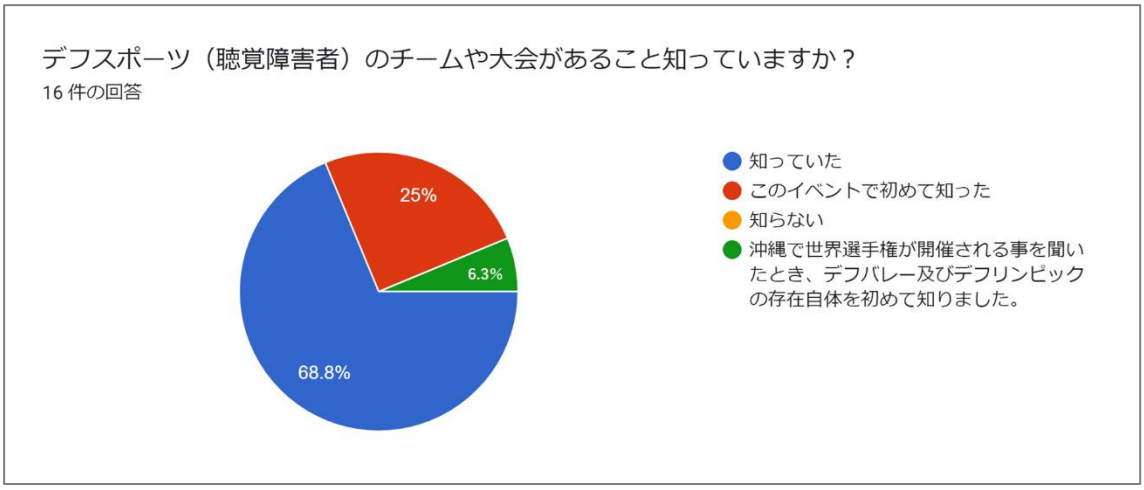
開催日	令和６年１月 20 日（土）11：30～12：30、14：00～16：00
会場	糸満市西崎総合体育館
招待チーム	男子：琉球ブルーシールズ 女子：沖縄県国体選抜チーム
運営協力	・主審、副審 糸満市バレーボール協会 ・線審、点示、補助員 琉球シールド（中学生クラブチーム）
実施内容	11:30～12:30　２セットマッチ試合形式 （昼食） 14:00～16:00　１セット毎の強化試合形式
観客数	バレーボール交流会からの延べ人数　約 150 名

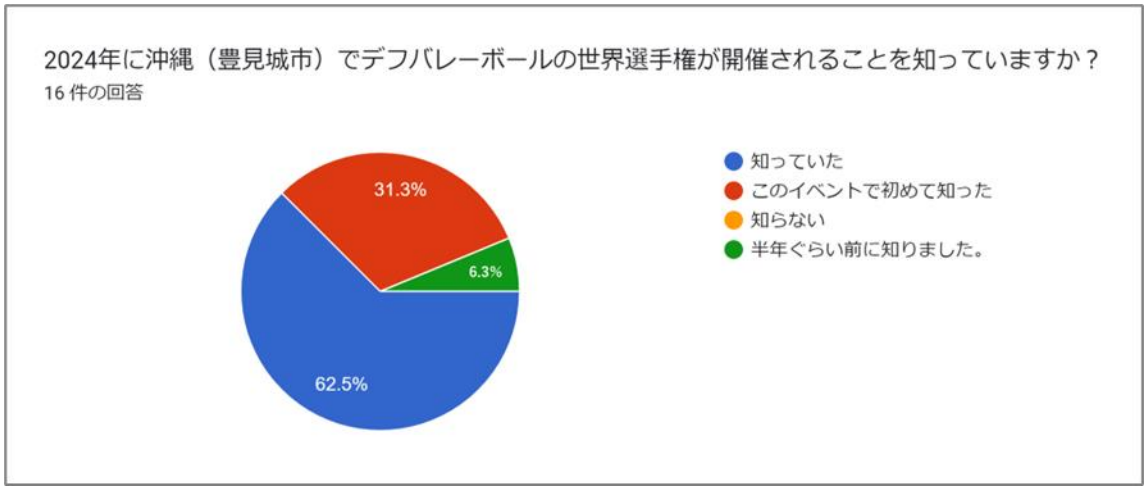
③ エキシビジョンマッチ（公開試合）

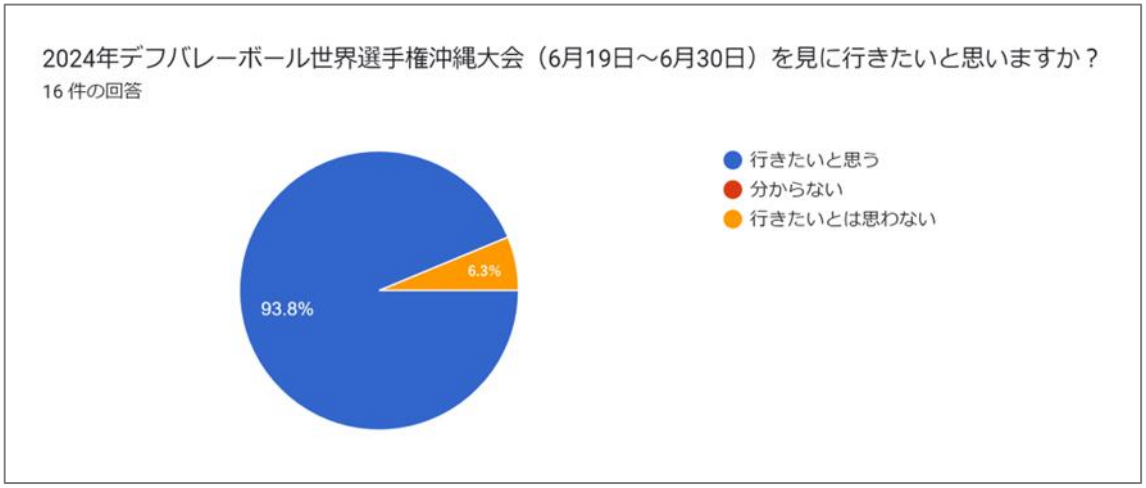
開催日	令和６年１月 21 日（日）10：00～12：00
会場	豊見城市立豊見城中学校
招待チーム	男子：２au 女子：西原高校３年生チーム
運営協力	主審、副審、線審、点示、補助員 　豊見城中学校男女バレーボール部
実施内容	9:00～10:00　会場、ウォーミングアップ 10:00～16:00　１セット毎の強化試合形式
観客数	約 50 名

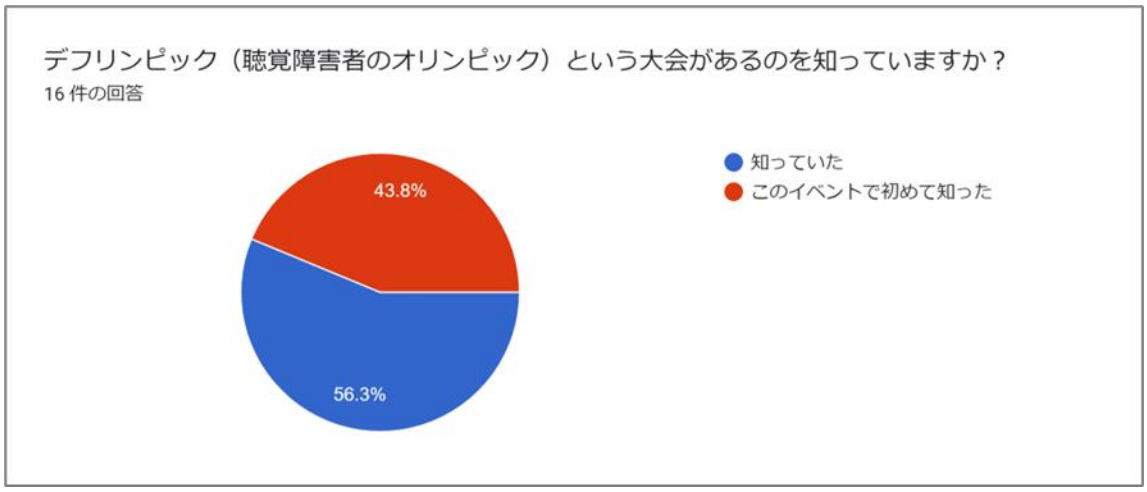
＜実施効果＞

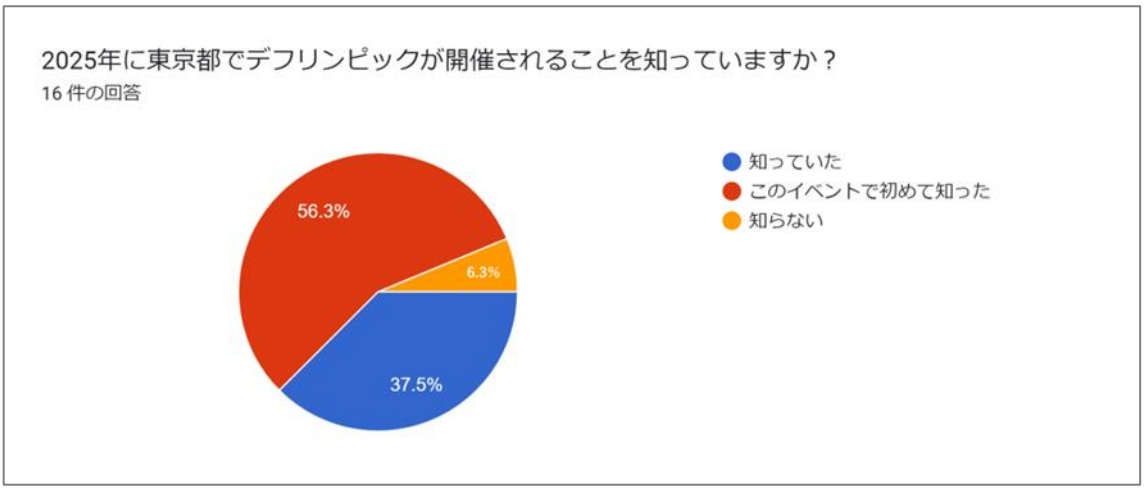
二日間のイベントの中で、参加者に任意でアンケートに回答してもらった。
回答数は 16 名と多くはなかったが、デフバレーボールやデフリンピックの認知拡大、2024 年世界選手権沖縄大会への観戦意欲の向上に貢献できたと考える。

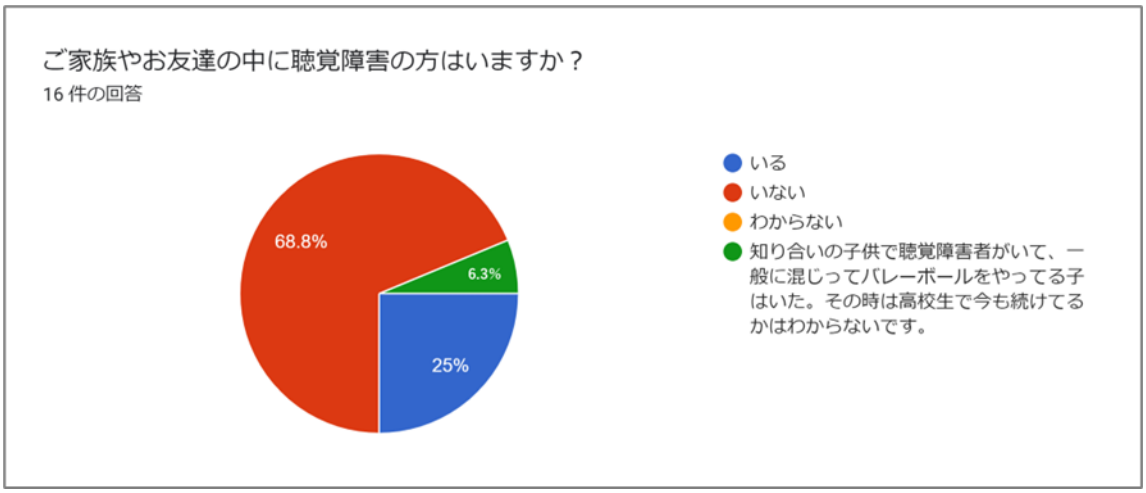












■今回のイベントで覚えた手話を教えてください（いくつでも）

ありがとう（7 人）、拍手（6 人）、自分の名前（5 人）、よろしくお願いします（2 人）、
いいね、あいさつの言葉、嬉しい、パッション、ごめんなさい、久しぶり、
頑張って、応援しています、指文字

■今回のイベントで特に印象に残ったことがあればご記入ください（原文ママ）。

・チーム混ぜて楽しそうだった。
・手話を通して会話をしていたこと
・小学生の交流会
・子供達が自然と手話をして、相手の言っていることを汲み取ろうと考えている姿にいい経験ができたと感じた。
・様々な手話でのコミュニケーション
・試合中も手話で会話をしていたこと。
・デフバレーを初めて見ました。お互いの声が聞こえないなか、ボールに被らないように、ゼスチャーを大きくして意思を示してるところが印象的でした。
・監督、選手同士のコミュニケーションをとるのが難しそう
・デフバレーの歴史の展示が良かったです。
・息子が shield に所属しています。帰る際に選手の方一人が、玄関の外まで出てきてお礼を伝えに来ていました。その時に頑張ってと手話で伝えたかったのですが、何も分からず自宅に帰って手話を調べて、翌日使える事が出来ました。お互い寄り添う事が大切だと改めて感じました。
・とにかく見学して刺激を受けた
・聞こえない中でもコミュニケーションを取りながら、プレーできることを知りました。高い集中力が必要だと思います。
・選手同士やスタッフの方々とのコミュニケーションの取り方

■イベント全体へのコメントがあればお願いします（原文ママ）

・参加させてもらってありがとうございます。貴重な体験は子供達の将来に必ず良い影響を与えてくれると思います。
・とても素晴らしい機会をありがとうございました。聴覚障害や手話のことを本やテレビで知るのとは比べられない刺激になったと思います。
・応援しています！
・大会楽しみにしてます。
・沖縄県協会がもっと積極的に声かけすれば、もっと応援増えると思います。
・皆さん頑張ってください。応援しています。
・まじかで、日本代表の試合が見れて良かったです。
・こどもも大人も楽しそうにバレーで交流してて、スポーツっていいなと思いました。
・定期的に絶対やってほしい。刺激になります。
・デフリンピックという大会があることを知りました。選手のプレーする姿を実際に見ることができて良かったです。

＜広報・情報発信＞

・当協会の Web サイト及び SNS にてイベント開催の記事を配信した。
・糸満市のホームページにて、事前の告知記事並びに実施報告が掲載された。
・沖縄県スポーツコミッションの SNS にて告知記事が配信された。
・NHK 沖縄放送局の取材が入り、2 月 9 日に放送された。

"日本代表選手と手話でコミュニケーション"デフバレーボール世界選手権2024事前イベント

ページID：0021035
更新日：2024年1月20日更新
通常ページへ戻る

令和6年6月に豊見城市を主会場として行われる「デフバレーボール世界選手権2024」を前に、デフバレーボール体験・交流イベントが1月20日（土曜日）、西崎総合体育館で行われました。

デフバレーボールとは、聴覚障害者によるバレーボール競技の事で、チームメイトの声や審判の笛の音、ボールをはじく音などが聞こえない・聞こえにくい選手がプレーします。通常のバレーボールと同じ6人制で行われ、コートや用具競技形式なども同じです。　今年6月には豊見城市を主会場、糸満市を練習会場としてデフバレーボール世界選手権2024が開催されることが決定しており、今回は強化試合をかねて、男女の日本代表選手と地域のバレーボール少年団の交流会が行われました。

交流会では、子どもたちが各グループに分かれて選手と手話やバレーボール競技を通じてコミュニケーションを取る様子が見られました。

交流会に参加した兼城フレンズの上江洲瑚乃さん（兼城小6年）は「手話でコミュニケーションを取りながらバレーすることが初めてで、最初は緊張しました。耳が聞こえなくても相手の目を見て手話をしたら伝わったので良かったです。身近な人に耳が聞こえない人がいても、手話でコミュニケーションを取れるようにしたいです」と話しました。

↑　糸満市ホームページでの実施報告（https://www.city.itoman.lg.jp/site/sportscamp/21035.html）

＜デフバレーの歴史パネルの製作及び展示＞

デフバレーボール日本代表の歴史には、沖縄県の体育教師だった宮里先生の功績が大きく関わっていることから、世界選手権の開催とデフバレーボールの周知のために、デフバレーボールの歴史を紹介するパネル（B２サイズ 4 枚）し、宮里先生のご家族から当協会に寄贈されている「アルバム」の一部、過去大会のトロフィー・メダル、参加国のペナントフラッグなどをイベント会場のロビーに展示し、来場者に自由観覧してもらった。

また、このデフバレーの歴史は社会教育的な観点からも価値があると豊見城市中央公民館のご担当者からコメントをいただき、当イベント終了は一式を豊見城市中央公民館にて 6 月の大会本番まで展示されることになった。

作成したパネルは、2 月の沖縄県知事表敬訪問の際にも知事室へ持ち込まれた

3）デジタル活用

当初計画では、聴覚障害者はプレーをしながら耳からの情報を得ることができず、後から映像等を見て振り返りプレーや戦術などの約束事などを確認する必要があるため、その実現に向けて ICT 活用による支援を行うこととしていた。

しかしながら、そのためのツールの選定や実用化に向けた検討を行う中で、その実施が技術・予算的にも困難だったこともあり、代表チームでのスポーツ場面よりも、デフスポーツの普及というより広い観点が必要であると考えるに至った。

チームスタッフの所属先にて、障害者と健聴者がデジタルツールを活用して相互コミュニケーションが取れる取組として、AI 手話翻訳ツール（ソフトバンク社）の体験会が開催される機会があり、選手と共に参加した。本事業の中での活用を検討したが、日程や準備的に実現が難しかったため、次年度以降の当協会主催イベントの機会の中で実施することを継続して検討することとする。

５．事業の成果

本事業に取り組むことで目指していた「健聴者も聴覚障害者も、「ともに」スポーツを楽しむことができる社会」という姿については、なかなか数値で評価することが困難であるが、千葉での出張教室、沖縄でのイベントにおいて、デフバレー・デフスポーツ・手話に初めて触れたという対象者が一定数おり、交流の機会を創出できたことは大きな一歩であった。また、千葉、沖縄のイベント共にメディア取材もあり、露出にもつながった。まずは知ってもらい、体験してもらうこのような機会を増やしていくことで、「聞こえる」「聞こえない」の心理的なハードルは低くなっていくのではないかと考える。

当協会として、このようなデフバレーの普及啓発イベントを本格的に実施するのは初めてのことであったが、当初のスタッフの想像以上に選手たちが生き生きとして、聞こえる子供たちとの交流を楽しんでいる姿が印象的であった。また、「世界選手権頑張って」「応援しているよ」というたくさんの声を直接的に聞いたことで、代表選手としての自覚もより一層強くなったように見受けられた。イベント開催のノウハウと共に大きな収穫であった。

６．今後の事業展開予定

前述したが、千葉エリアでの出張教室がきっかけとなり、次の教室開催のオファーがあった。また、特に東京都内を中心に東京 2025 デフリンピックに向けた広報活動も活発になっており、ろう学校や自治体等から教室・イベント等の依頼も多くなってきている。この機会を逃さないように、本事業の取組で獲得したプログラムのノウハウや自治体との連携、広報などの経験から積極的に活動していきたい。

さらには、当協会自体でもデフバレーの普及やジュニア世代を含めた新たな選手のは靴のために、交流イベントや教室などを自走化していけるよう、資金やスタッフの獲得に向けて計画的に努力を進めていきたい。そのためには、ナショナルチームの活躍が大きく寄与することは、他競技をみても明らかであることから、チーム強化のための環境整備にも努めていくことが必要である。

東京都スポーツ文化事業団のイベント参加

東京都内ろう学校でのデフリンピック教室